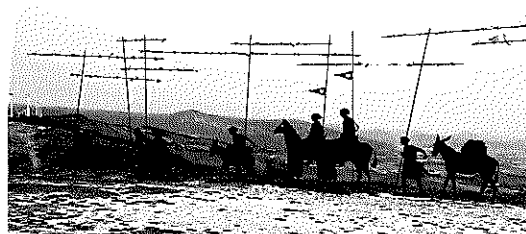


こどもたち

Buen Camino !

スペイン巡礼

5月19日から7月8日まで51日かけてスペイン巡礼路を歩いて参りました。歩き始めて早々に例年にな



いスペインの初夏の暑さが襲ってきて、時差ボケで寝不足の上に歩くペースのつかめない私は少々熱中症気味になっていました。何度も同じことを聞いて夫が心配したようです。幸い倒れるとか、救急のお世話になることなく、少し木陰で水分を取ってなんとか元気を取り戻しました。

そのことを最初1週間くらい度々出あっていたオランダ人の同年代のご夫婦に話す時、多分英語としては“*I felt faint*”という表現になるのですが、思い浮かばなかった私は“*I lost my mind.*”と言ってしまいました。するとご主人の方が「それは良かった。あちこちに“*Lose your mind, find your soul*”という言葉が書いてあって、あなたは半分達成できたじゃない。」と冗談も交えて教えて下さいました。

巡礼地には色々なスローガンと言うか言葉が書いてあり、気をつけてみるとあちこちに“*Lose your mind, find your soul*”という言葉があり、巡礼路を歩きながらその意味を考えていました。毎朝歩き始める時に空を見上げて、家族や友人もちろん MJM.東京の皆様のこと覚えてお祈りさせて頂きました。毎日体の不調や、天候など不安を抱えての出発でしたが、朝のお祈りをしていると不思議と力が湧いてきて、「生かされている、歩かせて頂いてる」と感じるようになりました。これが“*my soul*”につながるのかどうか？



巡礼者は歩きながら“*Buen Camino!*”と挨拶します。“*Buen Camino*”は「良い巡礼路を」と言う意味ですが、それぞれの“*Camino*”の話をしながら、それぞれの人生の“*Camino*”について考え歩いて行きます。スローガンには“*Nunca Caminareis solos*”「巡礼路は決して一人じゃない」というものもあります。まだ、数か月しか経っていませんが、毎日歩く事だけを考える日々を遠い昔のことのよう思い出します。 阿部園子

例会報告

2021年9月例会

10月1日(金)10:30~

キャンドル会 マルコによる福音書10:2~9

オルバン教会・会議室

オルバン出席者: 吉松さら、三浦万都美、阿部園子

Zoom 出席者: 廣島都留、辛島佐和子、高津達夫

ファリサイ派の律法を文字通りに守るのではなく、イエス様は律法の前に神さまのお心にそうと、神様が喜ぶことをすること、神様に立ち返ることが大事であることを教えている。

10月例会

10月29日(金)10:30~

Zoomによる「み言葉の礼拝」

出席者: 廣島都留、吉松さら、辛島佐和子、景山恭子

高津達夫、渡邊明子、三浦万都美、阿部園子

聖霊降臨後第23主日の日課を用いて、皆で「み言葉の礼拝」をお捧げ致しました。コロナ禍の中、zoomで繋がり、お祈りできるお恵みを深く感じます。

11月例会

11月5日(金)10:30~12:20

管区事務所会議室にて

テーマ: 苦難の中の恵み

お話: 武藤六治主教

出席者: 廣島都留、吉松さら、阿部園子

Zoom 出席者: 高津達夫、遠山京子、辛島佐和子、

キム司祭

「神の恵みによって今日の私があるのです。」

コリントの信徒への手紙I 15:10

都留さんのお願いで、武藤主教様に日本聖公会の創成期特にウイリアムズ主教のお話、「道を伝えて己を伝えず」という有名なお言葉のまま、日本聖公会の礎を築かれた歩み。

また、真珠湾攻撃後、米英の宣教師が母国に引き上げる中、逮捕されたヘースレット主教は独房の中、ポールラッシュ氏も拘留中イースターの祈りを捧げられたという事。

まさにテーマの「苦難の中の恵み」のお話でした。本当に貴重なお話で、もっと多くの方々と共有したいと思いました。

(阿部園子)

12月例会

12月3日(金)10:30~12:20

管区事務所会議室にて

植松 功さんによる「テゼの祈り」

管区事務所参加者: 森泉弘次、吉松さら、三浦万都美、

阿部園子

Zoom 参加者

伊藤真紀子、景山恭子、辛島佐和子、Kumiko Buller、

遠山京子、廣島都留、渡邊明子、Julia Lloyd

大宮まき、丸山陽子、渡邊明子

アドベントに入り功さんのお話しとテゼの歌とで、クリスマスを迎える準備ができました。



功さんが持参されたイコンは、ご自宅の祈りの部屋に飾られているそうです。

右側にイエスさま、左側に聖ミナス。よく見ると、イエスさまが聖ミナスの肩をだいています。

イエスさまがいつもそばに共にいてくださるのだと、見ていて心があたたかくなります。

2022年1月例会

1月28日(金)10:30~

管区事務所会議室にて

映画会「キングオブキングス」

出席者: 吉松さら、阿部園子、三浦万都美

Zoom 出席者: 廣島都留、渡邊明子、

NYから、金司祭、遠山京子、景山恭子



Zoomと対面と両方での映画の会をトライいたしました。クラシックな映画で、映画を見た後での感想が盛り上がりました。

映画をzoomで初めて共有する私に、また市原司祭が色々準備を手伝ってくださり、当日は先生のアカウントをお借りして、時間制限なしで見ることができました。

2月例会

2月25日(金)10:30~

管区事務所会議室

「ヨハネによる福音書におけるイエス」 森泉弘次

参加者: 吉松さら、三浦万都美、阿部園子

Zoom 参加者: 景山恭子、高津達夫、遠山京子、

ちょっとしたアクシデントで、森泉先生がいらっしやれなくなりました。Zoom出席の皆様と色々近況を語り合いました。

後日先生に送っていただいたレジメを皆様にお送りいたしました。いつか対面で先生のお話をうかがいたいと思っています。

3月例会

3月25日(金)10:30~

Zoomによる例会

「十字架の道行き」

参加者: 高津達夫、廣島都留、吉松さら、三浦万都美、

阿部園子



昨年に続き、アグネス教会の十字架の道行きを用いて皆様でお祈りいたしました。

来年はアグネス教会で皆様と一緒に「十字架の道行き」を行いたいと思います。(阿部園子)

4月例会

4月19日(金) 10:30~

管区事務所会議室

植松 功さんによる「テゼの祈り」

参加者：植松栄子、景山恭子、吉松サラ、深沢しのぶ、
三浦万都美、阿部園子

Zoom参加者：伊藤真紀子、辛島佐和子、遠山京子、
マズーアともこ、渡邊明子、渡辺義也

ハレルヤ、主の復活



植松さんはお話の中で絵本を紹介してくれました。

台所のマリアさま
Kitchen Madonna
ルーマー・ゴッデン著

イギリスが舞台。
他人に興味をしめさず、閉じこも
りがちなグレゴリー少年が、ウク

ライナ人で故郷を失って独り身のお手伝いのマルタに心を開くようになり、彼女のために、台所の隅にいい場所を、作りそこにマリアさまと幼子のキリストさまを置くことを考えた。マルタから聞いた像でも絵でもなく、絵に似ているけど、もっときれいで金や宝石で飾ってあるもの、それは聖母のイコン。彼は探し求めやがて自らの手で作り始める...

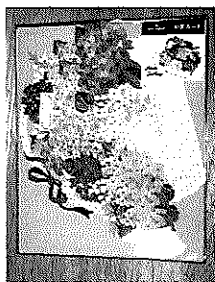
5月・6月例会 お休み

7月例会

参加者：廣島都留、三浦万都美、阿部園子

コロナ禍が2年も続き、zoom など色々試行錯誤しながら例会を行って参りました。毎月 MJM 東京の例会はできなくても、講演会などのご紹介をさせて頂いたりしながら、なんとか皆様と繋がって参りました。

無理をせずに、皆様との交わりを続けていければと思っております。今後も宜しくご支援くださいますようお願い致します。



4月23日は笹森主教が北海道教区主教按手されました。我々MJM 東京そして、NY MJM の皆様も大きな喜びを持ってお祝い申し上げます。MJM 東京からはお祝いのカードをお送り致しました。

また、ランベス会議で早速ご活躍です。ちょうど市原司祭がお隣に写っている写真が、アングリカンニュースのトップに掲載中です。



洗礼・堅信 おめでとうございます。

受洗礼・堅信式感謝について

ウィリアム海老原重幸

私が、洗礼・堅信を受けさせていただくまでの経過を以下記します。

1. 1970年、大学2年生の時、ボストン郊外のお宅にホームステイさせていただきました。滞在期間中に家族5人に連れられて初めて教会を訪れました。訪問回数は約10回前後でした。その時の印象は礼拝後の心が洗われた様な爽快感でした。

2. 大学時代は、起業家史に興味を持ち学びました、マックス・ウェバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」が基と名なる学問です。

3. 以後、サラリーマン生活を終えるまで、私にとっては、キリスト教は欧米社会を理解するための教養的位置付けでした。

4. 2015年、定年後、心の空洞化・宗教の必要性を感じ、図書館で半年間仏教、一年間キリスト教関連の本を読み続けましたが、心の空白を埋めることはできませんでした。

5. 2017年7月、ネットから英語による礼拝を行われているオルバン教会を見つけることができました。しかも、47年前、訪れた教会と同じエピスコパル教会でした。即、訪れこととなりました。久しぶりに訪れた印象は同じもので、心の空洞化を埋めてくれるようでした。

6. 以後、ウィリアム司祭の数々のご指導、MJM 勉強会参加、太田司祭の教会問答勉強会2期出席、その後のご指導により、聖書にますます魅かれていきました。

7. 2019年、不運にも、コロナ危機の到来、巣籠生活時間を埋めるべく、聖書を読むことを決意、4福音書を学んでいるうちに新約聖書は27巻あることに気づき啞然とすると共に、全部学ぶ必要性を認識しました。約3年半、福音派牧師によるネット講座もあり、2回、夢中になって学ぶことができました。

生来、努力不足、怠惰な性格を指摘されてきた私がこれほどに注力できたのはかつてなかったことから、これは聖霊の導きに違いないと確信いたしました。

旧約聖書は3巻かじり読みしただけです。

今では、キリスト教は、偉大な唯一の神による救いの宗教であり、また、聖書は人間にとっては、飽くことのなき学びの書である実感しております。

8. 以上の過程を経まして、私なりに聖書に書かれている内容は真実であると理解、同意、信頼して、イエス様は私の唯一の救い主であることを確信をもって信じるができるようになりました。

9. 今年の復活祭の日に、私にとって、ユダヤ的にはラビ、霊的指導者である聖テモテ教会の太田司祭に洗礼をお願いし、ペンテコステの日にお受けすることができました。

10. また、7月17日、主教巡回日に堅信式を受けることができました。コロナ危機の狭間に洗礼・堅信式を受けることができましたこと、神の計らいと畏怖の念を感じております。

そして、再び巣籠生活に入りました。

聖テモテ教会の「葡萄の木」月報より

あらためて、MJM の皆様に感謝申し上げます。

皆様には、受洗礼後の信仰における幼子のご指導のほどよろしく願いいたします。

MJM ニューヨーク便り

マリア 遠山京子

去年の秋からは、ウェスチェスターのお礼拝と共に新しく、聖ヨハネ大聖堂で行われているニューコミュニティーの環として、MJM が毎月第4週に日本語での集いを始めました。どなたでも参加できるのですが、特に教会には縁の無い日本人の方々、または日本語の繋がりをもちたい方々を対象に行っております。内容と申しますと、カトリックの神父さんで現在上野と浅草のカトリック教会で牧会なさっている春佐久昌神父が書かれた「星言葉」(すべてが動詞からなっている)の一章を朗読し、瞑想の時間を持ち、参加者で思ったことを分かちあい、テゼー、日本の歌(唱歌から現代の歌まで)を歌い、そしてお茶会で懇親を深めるというとてもシンプルで、インフォーマル、且つスピリチュアルな部分がある形態の集まりです。早1年近くが経とうとしておりますが、MJMのマンハッタン、ニュージャージー組が中心になり、その他にこれまで沢山の新しい方がいらっしや、金先生の最後の癒しの祈り以外では、一切キリスト教的な言葉が入っていません、そして全員参加型のユニークな集まりになっております。今後の展開が楽しみです。

5月にはアジア月間のプログラムで、アジア宣教に関わるグループがチャイナタウンの聖救主教会に集まり、MJMからも朗読、そして太鼓とダンスのコラボで参加いたしました。また8月7日には金先生のアジア宣教オフィスの主催で、大聖堂に国連で行われている核拡散防止条約検討会議参加のため日本からいらしている広島、長崎の被爆者を迎え「平和と正義の祈り」と題した集いで、MJMも通訳(国連その他でも)、音楽提供で奉仕いたしました。

毎月第4土曜日の聖書会では、元英国カンタベリー主教ローワン・ウィリアムス主教の書かれた「キリスト者として生きる」を、第一回に西原籐太立教大学総長を迎えて、洗礼、聖書、聖餐、祈りについて共に読んできました。毎週木曜日の5時のおやつタイムはもう二年以上も続いております。そして4月には、テリータウンのキリスト教会に於いて、教区の会衆活力と霊的養成を担当しているヴィクター・コンラド司祭がいらして、MJMの修養会が行われ、今までの40年を振り返り、そして将来のMJMのあり方、また求めるもの、そして今後の働きについて活発な意見交換がおこなわれました。金司祭がいらして、MJMも新しい出発ができたかと再確認した一年でした。

新しい方を迎える反面、失うものもあるのが人生です。去る8月5日に日本で長い間宣教師として、お連れ合いのフレッドさんとお働きなさったエレノア・ハナマンさんがお住まいのペンシルバニアで神の元に召されました。個人的には、私が中学生ぐらいの時からお世話になっており、アメリカ留学の時もアドヴァイスを頂いたお二人で、エレノアさんは、アメリカに一時帰国をした際、わざわざ車で私がいる大学まで様子を見に来て下さいました。このお二人がいらっしやらなければ、今こうしてアメリカにいることは無かったことでしょう。そして、10日の朝には長いことMJMのサポートをなさり、理事会の会長も長い間してくださったコンスタンス・コール司祭が神に召されました。お二人とも本当に日本聖公会、そしてMJMに連なる人々へ愛を沢山注いで下さった方々です。あまりにも予期しなかった知らせでMJM一同驚いております。どうぞそれぞれの素晴らしい女性の魂のため、そして残されたご家族のことをお祈りのうちにお覚えください。

2022年9月からの日程

9月30日(金) 10:30~12:30
スペイン巡礼の報告 阿部園子姉 zoom開催予定

10月 聖書会

11月25日(金) 10:30~11:30

ポールラッシュ記念館の学芸員の秦英水子さんのお話

12月6日(火) 10:30~12:30

アドベント、テゼの祈り 植松功兄

2023年

1月 「み言葉の礼拝」

2月 「聖地ろうあ子どもの里」のお話 吉松サラ姉
(The Holy Land Institute for the Deaf - HLID)

3月 大森聖アグネス教会にて 十字架の道行

担当: 阿部園子姉

4月11日(火) 10:30~12:30

イースター、テゼの祈り 植松功兄

5月 映画会

6月 黙想会

7月 総会

なお本年度も、新型コロナウイルスの状況次第では日程の変更がある場合もあります。例会の案内は登録されている方々にメールでお知らせしております。

対面での会が開催される場合には、参加者の方々は感染予防に留意され、ご出席いただきます様お願い致します。

TEKNA 担当者

8月号 阿部園子 クリスマス号 森泉弘次
イースター号 渡邊明子

本年度献金先 ごはん基金へ3000円

MJM東京2021年度会計報告
(自2021年8月~至2022年7月)

(金額単位:円)

入金明細	金額	入金明細	金額
前年度繰越金	6,467	会場献金	14,000
会費(21人)	31,500	TEKNA印刷、発送	16,530
席上献金	9,500	竹田主教への献花	1,870
特別献金	12,000	ごはん基金	3,000
		次年度繰越	24,067
合計	59,467		59,467

会費: 佐藤光子、山添圭子、渡邊明子(義也)、高津達夫、小幡詩子、工藤貴美子、廣島都留、森泉弘次、内堀玲子、西牧ウタ、川崎かれん、辛島佐和子、佐藤泉、丸山敬子、吉松さら、大蔵泰子、横山融、廣内光正、陶浪まり、三浦万都美、阿部園子

特別献金: 成松美代子、吉松さら

〈会費のお願い〉

MJM 東京への会費は同封のゆうちょ銀行の振込用紙で、他銀行からの振り込み用口座番号は、

ゆうちょ銀行 019 支店 当座 口座番号 0770266

または三菱東京UFJ銀行へお振込み下さい。

三菱東京UFJ銀行 吉祥寺支店(店番: 220)

普通 口座番号 1793933